

4/20 Q&A (日本語)

MR. IEMURA: Lexterさん、Lanceさん、いつもセッションに参加していただきありがとうございます。今日も楽しみにしており、議論に強い関心を持っています。

MR. LEXTER: プレゼンテーションを始める前に補足しておきますと、実はフィリピンでかなりの動きがありまして、ドゥテルテ大統領が鉱業セクターのモラトリアム解除を承認しました。リパント、マニラ・マイニング、そして先週紹介したニッケル・アジア、NFIのような鉱山会社にとっても、この分野全体にとって良いことだと思います。PLDTやGlobe、DITOほどの規模ではありませんが、すでにブロードバンド事業を展開しており、現在のテレコムのお客様はほとんどが企業です。今のところ、10社程度のお客様を持っています。実際、今年中に増資を行うことが取締役会で承認されており、サービスの拡大を目指していますが、DITOやPLDT、Globeのようなスピードではないかもしれませんが 毎年の設備投資額は約500億パタカです。非法人の非常に小さな会社なので、前の四半期に他の会社で見られたのと同じように、今はフォローオン・オフアリングを計画しています。

MR.IEMURA: OK、Lexterさん、ありがとうございます。

家村さんと松下さん: 日本語での会話

MR.IEMURA: レクスターさんは、石炭採掘の新規開発を解禁するとおっしゃいましたが、その理由を教えてください。

MR.LEXTER: 石炭だけではなく、鉱山全体を対象としています。

MR.IEMURA: 私の理解では、政府は新しい石炭火力発電所の建設を中止していますが、これは違う話ですか？

MR.LEXTER: そうです、違います。数ヶ月前に発表されたのは、石炭採掘の新しい契約が禁止されたことでした。しかし、COVIDのために政府は追加の税金や収入を得る必要があり、仕方なく鉱業セクター全体の禁止を解除したのですが、現在は鉱業セクター全体が禁止されています。今回の発表の前には、アキノ大統領の時代から、政府との間で新たな採掘契約を結ぶことはできないというモラトリアムがあったので、現在は、既存の契約に基づいてのみ事業を行うことができるのです。

MR.IEMURA: なるほど、アキノ政権はフィリピンの鉱業部門への外国投資を止めようとしたましたが、今、ドゥテルテはBHPビリトンや他のブラジルの鉱山会社のような外国企業のフィリピンへの進出を制限し、鉱業部門を活性化して、彼らからより多くの所得税を得ようとしているのですね。

MR.LEXTER: はい、その通りです。

MR.IEMURA: では、今回の規制緩和によってポジティブな影響を受けるとおっしゃっていた具体的な企業を聞き逃してしまったので、教えていただけますか？どの会社がプラスの影響を受けるのでしょうか？

MR.LEXTER: ここ数日、マニラ・マイニング（MAB）の取引が活発になっています。つまり、外国人であっても、フィリピン人でなくても、MABを買うことができません。

MR.IEMURA: 私たちが買えるのはLCBだけで、MABは買えないのですか？

MR.Lexter: はい。

MR.IEMURA: LCBだけです。

MR.LEXTER: はい、LCBです。そして、この2社はここ数日人気を集めていますが、私たちは鉱山会社にも利益があると考えています。

MR.IEMURA: ニッケル・アジアとFNI

MR.LEXTER: はい、FNIです。

MR.IEMURA: そして、ニッケル・アジア、さらに何か言っていましたか？

MR.LEXTER: マーク・ベンチャー

MR.IEMURA: マークのティッカーは何ですか？

MR.LEXTER: Cのマーク、M-A-R-C。MARCです

MR.IEMURA: M-A-R-C ああ、ありがとうございます。

MR.IEMURA and MR MATSUSHITA: 日本語会話

MR.IEMURA: Lexterさん、NOW社についてのご説明ありがとうございました。私が思うに、NOW社はPLDT Globe社やDITO社とは異なる技術を持っていて、彼らはより高い光学技術を持っています。これらの技術は、1マイルかそれ以降の無線接続のようなものだと思うのですが、光ファイバー技術とは何か、この技術の利点は何かを教えていただけますか？

MR.LEXTER: NOW社の場合、ファイバーウェーブ技術を使っているので、PLDTやGlobeのように地下のケーブルに接続するのではなく、周辺地域でしか信号を受信しないので、建物に衛星が設置されていても、その周辺地域からしかインターネットに接続できません。

MR.IEMURA: 地域ネットワークのようなものですね。

MR.LEXTERPLDTやGlobeが使っているような地下式ではないので、インターネットの中断が少ないと言いたいのでしょうか、何人かに聞いてみたところ、こちらの方が悪天候の影響を受けやすいとのことでした。

MR.IEMURA: そうですか、接続は天候に大きく影響されるのですね。

MR.LEXTER: はい、しかし、彼らは小さな会社なので、実際にはより良いサービスを提供しています。彼らの顧客は数人しかいませんが、ほとんどの顧客は企業なので、非常に豊かな市場です。

MR. IEMURA: B to Bに注力している。

MR.LEXTER: そうですね、この会社の時価総額はたったの50億ペソです。

MR.IEMURA: 50億ペソ？かなり小さいですね、とても。

MR.LEXTER: はい、とても小さいですね。

MR.IEMURA: オーケー、オーケー、なるほど、ありがとうございました。

MR.IEMURA and MR MATSUSHITA: 日本語会話

MR. LEXTER:PXPは、PLDTのオーナーであるMPPグループが所有する探査会社で、この会社は石油探査に力を入れています。掘削に一番近いのはACEXだと思いますが、これはアヤラのことで、PXPにも似ています。石油探査にも力を入れています。申し訳ありませんが、商業的に実行可能な事業の掘削に最も近いのはこの2社だと思います。

MR.IEMURA and MR MATSUSHITA: 日本語会話

MR.IEMURA: レクスターさんPXPは石油探査の会社で、石油探査にかなり力を入れていますよね。そうすると、この会社がこれから成長して企業のバリエーションを増やしていくためのドライバーは何でしょうか。

MR.Lexter: 正直なところ、石油を探索しているだけでは、実際にはお金を稼いでいないので、潜在的な石油埋蔵量を探索するために多くのお金を費やしているだけです。この山は石油探査のためのもので、一度石油を発見したら、それが実際に商業化可能かどうかを確認しなければなりません。なぜならば、石油を発見しても、わずかな埋蔵量に過ぎず掘削する価値がないかもしれないからです。マランパヤの懸念は、埋蔵量が2024年までに枯渇すると予想されていることです。そのため、政府は現在、より多くの企業に石油探査を奨励しています。

MR. IEMURA: なるほど、そうですね。フィリピンの国自体が大きな石油需要を持っているが、国内の生産量は本当に限られているということですね。

MR. LEXTER: 本当に限られていますので、必要な石油の2%以下しか生産していないと言ってもいいでしょう。

MR. IEMURA: 外国産のオイルとフィリピン産のものを比べて、オイルの品質はどうでしょうか？

MR. LEXTER: 品質は非常に良いと思いますが、唯一の懸念は、例えばカナダやテキサス、アメリカのように、オペレーションがそれほど大きくないこと、あるいは予約が取れないことです。フィリピン側は、パラワン島に実際に埋蔵量があることから、同じ場所でさらに掘削して、商業的に実現可能な埋蔵量を探ることができるかと期待しています。

MR. IEMURA: そうすると、フィリピンの探査の規模は、アメリカやカナダよりもOPECよりもずっと小さいということになりますね。

MR. LEXTER: 問題は、彼らがまだ何も証明していないということです。まだ探査段階だからです。つまり、大規模な埋蔵量が見つかっていないということです。だからこそ、彼らは今、それを実現しようとしているのです。

MR. IEMURA: 現段階ではまだ探査段階ということは、PXPはまだマイナスの財務状況で、PNLはマイナスですね。

MR. LEXTER: そのとおりです。

MR. IEMURA: 政府からの子会社のようなものはありますか？政府は石油の採掘を奨励していますから、政府のサポート？資金援助？ありますか？

MR. LEXTER: 税金の優遇措置だけですが、政府はレベニューシェアをしません。しかし、通常、政府は民間企業にサービス契約を結び、20年、30年、あるいは50年に渡って探査プログラムを実施することになっています。サービス契約が終了すると、その時だけ探査を続けることができなくなるので、サービス契約には探査期限が設けられています。

MR. IEMURA: なるほど。

日本語会話

MR. IEMURA: Lexterさんありがとうございました。テックに行きましょう。

MR. LEXTER: テックは半導体の会社で、ラグナに施設を持っています。衛星放送受信機に供給されるチップを製造しているので、衛星放送受信機の部品の一部はテック社が製造していることになる。テックの最大の顧客は米国のHorizon社で、子会社には米国のQUINTELL社がある。テックにとって最大の貢献者と言えるだろう。一部の製品は台湾にも輸出されており、台湾からの売上は15～20%程度だと思います。

MR. IEMURA: クライアントは台湾セミコンダクターですか？

MR. LEXTER: 必ずしも会社ではなく、国に対してです。

MR. IEMURA: そうなんですね、それはいいですね。

日本語会話

MR. IEMURA: 半導体の需要と供給のギャップは世界的に見ても非常に大きく、INTELでさえビジネスを始めているので、TECHIには大きな可能性があると思います。だから、半導体やチップは世界的に見ても非常にホットな分野だと思う。テックが衛星放送のアンテナ部分のチップを作っているという話や、HORIZONやQUINTEL、台湾の半導体メーカーが主要な顧客だという話を聞いてみたいと思います。実際、半導体の大きなスポット、大きな分野はEVやスマートフォン、クラウドコンピューティングのようなものだと思います。これらの分野は、半導体市場の中でも非常に大きなマーケットです。テックは半導体の大きな分野で何かやっているのですか？

MR. LEXTER: テックの製品は、最終製品のほんの一部だと思います。ICやダイオードを製造しているのは、基本的にはパッケージ全体の中のほんの一部の製品で、通常はそれを製造して台湾に供給します。台湾はそれを中国に出荷し、フィリピンに戻って組み立て、アメリカに出荷してアイフォンとして販売する、というのがその仕組みです。テックは、いくつかの電子機器のうちの1つの部品を製造しているに過ぎないのですね。

MR. IEMURA: どんな電子機器ですか？

MR. LEXTER: 非常に幅広く、自動車であったり、携帯電話であったりします。彼らは実際に最終製品の多くを供給しています。例えば、顧客が他の国では高価な特定の部品を製造してほしいと希望した場合、テックに特定のチップやIC、ダイオードを製造してもらい、それをテックが製造した後、台湾やシンガポール、中国などの顧客に出荷するというカスタムベースのサービスも行っています。これが彼らのやり方です。テックの懸念点は、固定契約を結んでいないことだ。通常、彼らの契約は3年から5年、私は1年から3年と言っているが、クライアントとの関係は3年から5年程度です。もちろん、顧客がテックのサービスに満足していれば、延長することも可能です。それがテックの懸念材料のひとつかもしれません。そして今、COVIDによる物流の問題で、世界的にチップが不足しています。

MR. IEMURA: ありがとうございました。

日本語会話

MR. IEMURA: レクスターさん、テックの状況は理解しています。しかし一方で、TECHは6.67%しか値上がりしておらず、推奨時期からすると本当に地味なIPOです。ということは、これから大きく上昇するということでしょうか？ あなたはどう思いますか？

MR. LEXTER: はい、もしあなたが1年から2年という長い時間軸に賭けるのであれば、テックはピックアップするのに適した時期だと思います。世界経済が好転し始めれば、半導体産業の恩恵を受けるのはテックだと思いますので、良いエントリーになると思います。

MR. IEMURA: そうですね、今まで6.67%しか上がっていないので、買い時だと思います。Lexterさん、ありがとうございます。そのため、非常に簡単で、変動も非常に良いです。

日本語の会話。

MR. IEMURA: Lexterさん、APVIIについて質問があります。APVIの株価はすでに70%にまで跳ね上がっていますが、その理由はイロコス地方がコロナの悪影響を受けにくいからだだと思います。イロコス地方はコロナの影響が少なく症例数をかなりコントロールしています。つまり、APVIの現在の価格には、ショッピングモールの良い運営状況がすでに含まれているということです。そこからさらに成長する余地があるということでしょうか？利益や株価を上げる可能性はあるのでしょうか？

MR. LEXTER: この会社は紹介制で上場しているので、IPOはできません。背景を説明すると、この会社は数年前にRLCの株を持っていたときに上場していて、最初の取引日に100ペソから確か200ペソに上がり、その後5ペソまで下がりました。10ペソから200ペソ、そして200ペソから5ペソになったと思います。今は20前後で取引されているので、大きな変動が好きな人にはAPVIIは良いプレイだと思います。少なくとも15ペソから16ペソの間に入ることができれば、大きな調整を待つことができ、良いレベルだと思います。

MR. IEMURA: 15～16ペソ？

MR. LEXTER: はい、そのあたりです。急ぐ必要はありません。

MR. IEMURA: イロコス地域の可能性についてはどうですか？イロコス地域の経済的可能性について、人口増加は？

MR. LEXTER: イロコスはマニラほどの規模ではありませんが、イロコスではコヴィッドの症例が少ないため、一部のモールの運営はまだ通常通り行われており、マニラよりも大きなキャパシティがあると思います。そのため、COVID 2020の影響はすでに受けており、2020年の収益はすでに減少しています。彼らは実際に、テナントのために家賃の猶予を与えています。つまり、最悪の事態は2020年にすでに発生していたのです。ですから、2021年以降はAPVIIにとって良い年になるでしょう。私はこう言いたい。

MR. IEMURA: イロコス島の人口をご存知ですか？

MR. LEXTER: とても少ないです.....500万人以下だと思います。

MR. IEMURA: とても小さな町ですね。

MR. LEXTER: とても小さい、小さな州です。そのため、人通りもそれほど多くありません。マニラのショッピングモールは1日に1～2万人の人出がありますが、こちらのショッピングモールは半分の5千人くらいでしょうか。

MR. IEMURA: ありがとうございました。

日本語会話